

地理歴史科

世界史B

1 はじめに

本校での世界史学習の流れは、以下のようになります。

〔2年次〕

世界史A（必修、2単位）：近現代史を中心に扱います。

〔3年次〕

世界史B（必修選択、5単位）：古代・中世史を中心に扱います。

『詳説世界史 改訂版』では、序章から第7章、12章にあたります。

世界史B a（自由選択、2単位）：19世紀末以降の近現代史を扱います。

『詳説世界史 改訂版』では、第13～16章にあたります。

大学入試の受験科目として世界史を選択する予定の人は、ほとんどの大学で世界史Bと世界史B aの授業全てが入試の出題範囲になります。さらに、夏季講習や冬季集中講座も予定しています。詳細は授業でお知らせします。

3年では特に、大学入試問題に対応できる力をつけることを目的に授業を展開していきます。学習の密度も厚くなり、進度もかなり上がりますので、それなりの覚悟を持って臨んでください。

受験のためとはいえ、単に機械的暗記では対応できません。世界史ではよくタテとヨコの関係といいますが、学習した内容が互いにどのように関連しているか留意してください。個々の事項が、どう結びついているか、関係性が理解できるようになると、わかるようになるし、類推もきくようになると思います。

2 勉強方法

「学問に王道なし」という言葉がありますが、簡便な勉強法はありません。これをやればできるということではありません。授業では、なるべく穴がないように教科書を地道にやっていきます。基礎・基本の徹底が、遠回りのようですが、確実な方法です。受験勉強は、長距離走です。焦らず、コツコツ行きましょう。さらに言ってしまうと、世界史では「覚える」ことも大事ですが、覚えたことをいかに使うかが大事です。英語で英単語を覚えると思いますが、それだけでは英文は読めないでしょう。世界史にも固有な用語—ターム—がありますが、必要な用語は決まっています。それをどのような場に使うかが大事になります。ですからタテの関係、ヨコの関係、いろいろ関係づけて把握してください。そのためには問題の演習が有効です。短い單元ごとでもよいので、実際の入試問題にあたるのは有効だと思いますし、自信もつくでしょう。授業でも、入試問題を取り上げますが、自分でも問題を探してみてください。

具体的な勉強方法についてですが、「読む」と「書く」につきます。「読む」とは、教科書をはじめとして、図録・用語集や参考書などをよく読みこむことです。教科書は本文だけではなく写真・図・地図の説明、脚注にも目を通してください。「歴史は流れをつかみましょう」といいますが、流れとは歴史上の出来事同士のつながり、ということです。個々の出来事を個別に覚えるのではきりがありません。それぞれの出来事を組み立て、一つのストーリーとして語れるということが、「流れをつかんだ」ということです。入試問題では、特定の時代・地域だけに限定せず、一つのテーマで長い時間軸をとったり、横断的にとらえる問が出されることも多いです。教科書などで学んだことを、自分なりに組み替えることも大事になります。「書く」とは、学んだことを鵜呑みにするのではなく、自分なりに解釈して整理しなおすことです。自分で箇条書きにする、流れ図をつくる、内容をまとめ、問題を解くなど工夫をしていってください。そして繰り返しになりますが、実際の入試問題で、学んだことがどのように問われているかを確認することも大切です。基本的な問題から始め、3年の後半には、自分を必要なレベルまで—例えば、何字くらいの論述を書かなければいけないか—高めていければ理想的です。

3 評価の観点

○知識・技能の習得（体系化、汎用性）

教科書の思考学習の受け答えや教師の質問に対する応答、定期テストにより判断します。

○思考力・判断力・表現力の育成（思考力、判断力、表現力）

主に授業中や定期テストの中で、歴史資料の読み取りが出来たか、歴史の流れがとらえられたか、自分の考えを集団でいかに表現するか等によって判断します。

○学びに向かう力・人間性（実践力、協働力）

主に授業態度（予習・復習含む）や教師の質問に対する応答や定期テストなどで判断します。

4 教材について

《世界史B・世界史B a 共通》

教科書：詳説世界史改訂版（山川出版社）

ノート：新世界史要点ノート応用編（啓隆社）

図表：最新世界史図説タペストリー 二十訂版（帝国書院）※2年次のものを引き続き使います。

用語集：世界史用語集（山川出版社）

問題集：新しい世界史B チェック&チャレンジ（山川出版社）

5 成績について

年4回（1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末）の定期テストで判断しますが、提出物などや平常点も加味します。